

「地区計画」の現状を知るための出前トークを開催しました

重要度
第1位

重要度第1位であった『青葉地区のように、地域密着の福祉施設ができるように「地区計画」を見直そう』について、まず「地区計画」の現状を知ることから始めました。平成20年1月29日(火)に、自治会会長など19名の参加をいただき、札幌市の出前トークを行い、もみじ台の地区計画の現状の内容と、平成19年2月に改正された青葉町団地の地区計画の内容を紹介してもらいました。

もみじ台「地域の茶の間」の取組みを始めました

重要度
第3位

「地域の茶の間」とは、地域の方が気軽に立ち寄れて、お茶を飲みながらお話ができる場所です。世代を超えた交流や、地域の「ふれあい」や「ささえあい」のきっかけになることを目指すものです。

「地域の茶の間」について勉強を重ね、2月2日(土)と3月9日(日)に、もみじ台管理センター1階「娯楽室」で試験的に開催しました。

はじめての試みでしたが、多くの方に訪れていただきました。参加した方からは、「とても良いことなので、これからも続けてほしいです。」「楽しくすごせました。」などの意見をいただきました。



2月2日(土) 参加者21名 スタッフ10名
3月9日(日) 参加者36名 スタッフ10名

好評につき、「地域の茶の間」を継続します

ところ もみじ台管理センター
1階「娯楽室」
(厚別区もみじ台北7丁目1-1)

開催日 月に1回開催します。
4月、5月、1月は第2土曜日
それ以外の月は第1土曜日です。

時間 午前10時～午後3時

みなさまのご都合に合わせて、この時間のなかでいつでもご自由にお立ち寄りください。

参加費 200円

お茶とお菓子を用意してお待ちしています。
昼ご飯は、用意していません。

もみじ台にお住まいの方はどなたでも歓迎です！
小学生以下のお子さんは大人と一緒に来て下さい。
タバコとお酒はご遠慮ください。



平成 20 年	4月 12日(土)	
	5月 10日(土)	
	6月 7日(土)	
	7月 5日(土)	
	8月 2日(土)	
	9月 6日(土)	
	10月 4日(土)	
	11月 1日(土)	
	12月 6日(土)	
	平成 21 年	1月 10日(土)
		2月 7日(土)
		3月 7日(土)

今年度もひきつづき、もみじ台の将来について、地区計画も含めて広く話し合う予定です。
今後も取組みへのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

お問い合わせ先：厚別区もみじ台まちづくりセンター 電話：011-897-6121

発行者：もみじ台まちづくり会議勉強会 もみじ台まちづくりセンター

平成20年4月

もみじ台まちづくり通信

このまちづくり通信は、平成19年度に行われた、もみじ台まちづくり会議勉強会などの経過を、地域の皆様にお知らせするものです。

もみじ台まちづくり会議勉強会設置のきっかけ

平成18年度に、もみじ台まちづくり会議の主催で「もみじ台のまちの将来を考える集い」を行い、地域の方52名が8グループに分かれて、人口減少や少子高齢化に伴う将来課題や解決アイデアについて話し合いました。

この結果を踏まえて平成19年度には、もみじ台まちづくり会議勉強会という形で、検討を継続することにしました。

<勉強会の様子>



<勉強会の構成>

メンバー：もみじ台まちづくり会議メンバーから10名
アドバイザー：北海道大学 瀬戸口准教授、修士2年生
事務局：もみじ台まちづくりセンター、厚別区市民部
市民まちづくり局都市計画部
オブザーバー：(株)石塚計画デザイン事務所

平成19年度の取組みをご紹介します

平成19年度は、5回の勉強会や、地域の方と広く話し合うために平成19年「もみじ台のまちの将来を考える集い」を開催しました(「表：平成19年度の取組み」を参照)。これらの話し合いを通じて、以下について具体的に取組むことにしました。

- ・『青葉地区のように、地域密着の福祉施設ができるように「地区計画」を見直そう』
- ・『「福まち」の相談会を一步すすめて、「地域の茶の間」のモデルをつくろう』

この通信では、平成19年「もみじ台のまちの将来を考える集い」の開催について2～3ページで、地区計画や地域の茶の間について4ページでご紹介します。

表：平成19年度の取組み

月日	項目	内容
6月15日(金)	第1回勉強会	もみじ台のまちづくりの当面の検討テーマについて意見交換
7月9日(月)	第2回勉強会	
7月13日(金)	もみじ台のまちの将来を考える集い	地域の方51名と、まちづくりの具体的な取組みアイデアや実現方法について意見交換
9月25日(火)	第3回勉強会	今後の取組みについて意見交換
11月4日(日)	白石の「地域の茶の間」の見学	白石まちづくりハウスで行っている「地域の茶の間」の見学
11月7日(水)	第4回勉強会	「地域の茶の間」の試験的開催に向けた意見交換
12月10日(月)	もみじ台「地域の茶の間」の検討	「地域の茶の間」の開催準備
1月29日(火)		
1月29日(火)	出前トーク(地区計画について)	札幌市から「地区計画」について説明
2月2日(土)	もみじ台「地域の茶の間」	「地域の茶の間」の試験的開催
3月9日(日)		
3月26日(水)		
		平成20年度の取組みについて意見交換

平成19年「もみじ台のまちの将来を考える集い」を開催しました

勉強会で話し合った内容を踏まえ、地域や個人で出来る具体的な取り組みのアイデアや、実現の仕方について、8グループに分かれて話し合いました。

また、北海道大学の瀬戸口先生からまちづくりの進め方についてアドバイスを頂きました。

「もみじ台まちづくり会議」は、もみじ台地区の各種団体が集い、住み良いまちづくりのための協議、協力、情報交換などを行うことを目的とし、もみじ台地区の各自治会、福祉関係団体、学校関係、ボランティア団体など51団体が参加しています。

<「もみじ台のまちの将来を考える集い」の様子>



<開催概要>

開催日 平成19年7月13日(金)
 開催時間 午後7時~8時55分
 開催場所 もみじ台管理センター大ホール
 出席者数 町内の皆様51名 札幌市11名 北大2名
 主催者 もみじ台まちづくり会議

まちづくりの3つのテーマ(取り組み目標)を確認しました

1. お年寄りの安否確認や、支え合いに取り組もう

- ・お年寄りが集まり、楽しめる場をもっと身近に増やそう
- ・お年寄りを支えるボランティアの担い手を増やそう

2. 気軽に集える憩いや活動の場づくりをしよう

- ・今ある施設を有効活用して交流の場づくりを進めよう
- ・施設以外でも憩いや交流の場づくりを進める方法を考えよう

3. 身近に福祉施設ができるよう、規制の見直しについて考えよう

- ・お年寄りが暮らし続けていくために必要な施設は何かを考えよう
- ・子供や孫と暮らせる、若い人が住みたくなるまちにしていこう



コラム：もみじ台では、人口が減り、高齢者が増えています

あらためて、もみじ台の現状を見てみましょう。人口は減少し、一方で、お年寄りが増えていることがわかります(図1)。お年寄りの割合は四人に一人を超え、札幌市の中で3番目に高い地域となっています。特に、入居の早かった北生自治会の戸建て住宅地では二人に一人という割合に近づいています(図2)。

図1：もみじ台の三世帯区分と世帯の推移

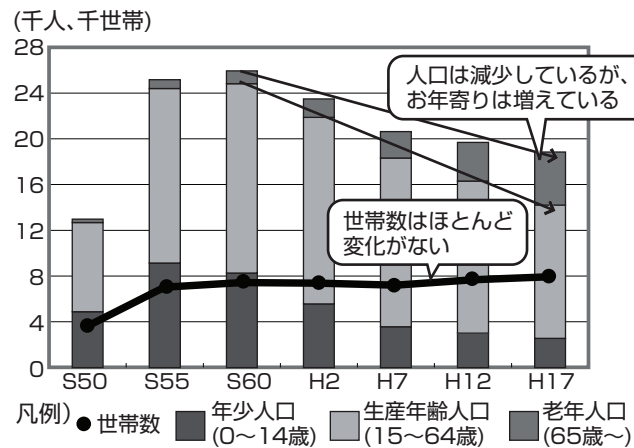
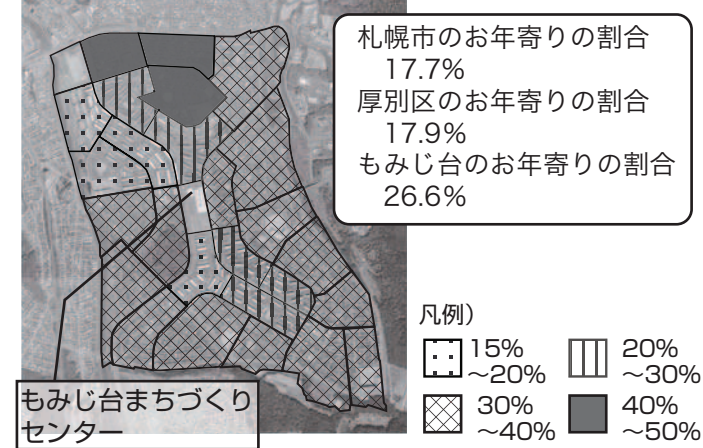


図2：もみじ台の条丁目別のお年寄りの割合(H18.10)



もみじ台に安心して住み続けるための取り組みアイデアを話し合いました

まちづくりの3つのテーマ(取り組み目標)を実現するために何をしたら良いか。これまでの話し合いで出されたアイデアも振り返りつつ、是非実現したい取り組みについて話し合いました。その中から明日からでも出来ることや、自分一人でもできることなど、第一歩をどのように踏み出すか知恵を出し合いました。ここでは、意見の多かったものをご紹介します。

身近に福祉施設ができるよう規制の見直しについて考えよう。

重要度第1位

青葉地区のように、地域密着の福祉施設ができるように「地区計画」を見直そう

- ・青葉地区の見学や、地区計画についての勉強会やアンケートなどをして、みんなで話し合おう。
- ・福祉施設ができるように住宅地の地区計画を変えよう。
- ・高齢者が集える喫茶店や店舗が作れるように、地区計画を見直そう。
- ・地区計画の見直しを市に要望しよう。
- ・もみじ台の静かで良い環境を守りながら、時代の流れに沿った地区計画を進めよう。

このほかに、空き店舗を福祉施設へリフォームしたり、公的用地を活用し福祉や地域のための施設ができると良いという意見も出されました。

気軽に集える憩いや活動の場づくりをしよう。

重要度第3位

「福まち」の相談会を一步すすめて、「地域の茶の間」のモデルをつくろう

- ・「福祉のまち推進センター(福まち)」のスペースを使いやすくして、活かした使い方をしよう。
- ・「福まち」以外でも集会所や空き住宅など利用して、食事の提供、喫茶コーナーがあるおしゃべりができるサロンをつくろう。
- ・白石など、地域の居場所づくり「地域の茶の間」に取り組んでいるところを見学に行こう。
- ・私も月に1、2度お手伝いができる。
- ・私もコーヒーや紅茶を入れることができる。
- ・私も食事作りなど世話役ができる。
- ・私も話し相手や相談相手、遊び相手になれる。

個人でもできる「気軽な居場所づくり」のノウハウを紹介し、輪を広げよう

- ・お茶飲みサロンを作ろう。
- ・私も自宅の空き部屋や庭の提供ができる。
- ・私もサロンの手伝いができる。

お年寄りの安否確認や、支え合いに取り組もう。

重要度第2位

既にあるお年寄り向けのサービスを紹介する「暮らしの便利帳」をつくろう

- ・お年寄り向けのきめ細かな情報を、紹介誌、広報さっぽろ、ホームページ、各自治会の横の連絡などで共有しよう。
- ・援護の必要な方の台帳「福祉カード」のPRなど、「福まち」の活動も共有されるようにしよう。
- ・NPOとして立ち上げたり、自分の特技の登録をするなど、お店情報など営利情報ばかりでないものにしよう。
- ・お店にもお年寄り向けサービスの提案をしよう。
- ・私も町内の情報を集めて提出できる。

安心コール(安否確認コール)の普及を考えよう

- ・安心コールの他にも、お互いの安否確認のために自治会の班や婦人部の協力を得たり、窓に小旗を掲げるなどの方法を考えて取り組もう。

ボランティアの点数制度(栗山町地域通貨「クリン」)の導入を考えよう

- ・ボランティア行為に地域通貨で応えるなどして、ボランティアを積極的に募集し増やそう。

その他のアイデアは、

使われていない社宅用地などを活用して、福祉複合施設などを誘致できないか

規制緩和以外でも、古くなった住宅の改修や住み替えの相談ができるとうい

- ・他都市の状況の資料を収集する。または先進都市へ視察することも良い。
- ・市が保証するような不動産業者に依頼する。
- ・住み替えの相談を行政指導で出来ないか。

どのような取り組みが必要か、何が出来るか。地域ぐるみで考えて、できることから行動していきましょう。